学位論文内容の要旨

第1編
急性非リンパ性白血病（ANLL）に対するaclarubicin（ACR）の臨床評価を明確にする目的にて、難治性ANLL16例に対するACR, cytosine arabinoside（ara-C）併用療法効果をACRの殺細胞様式をもとにして考案したRegimen(1)(2)で検討した。Regimen (1)（ACR45㎎/㎡をday1,2,3の3日間連日静注法）群の完全覚解（CR）は10例中7例70％, Regimen (2)（同量のACRを12時間12毎の2分割点滴静注法に変更し, day 1,2,3の3日間連日投与法）群のCRは6例中1例, 16.6％であり, Regimen (1)の高い有用性が明らかにされた。この成績は難治性ANLLに対する従来のNCDVP療法（CR率50％）と比較しても優れた成績であった。

第2編
未治療ANLL16例に対するdaunorubicin（DNR）, ara-C併用療法（Regimen(A)）, ACR, ara-C併用療法（Regimen(B)）の比較検討を薬剤投与法を同じくしたcontrolled randomized studyにおいて行った。CRはRegimen(A), (B)群とも8例中5例, 62.5％であり, ACRはANLL 宜解導入において第1選択剤とされるDNRと同等の臨床効果を有することが明らかにされた。尚Regimen(B)群で覚解持続中の3例は昭和60年11月現在5年以上生存中であり, 5年经过した時点で治療を中止し, 治癒症例と考えられるものである。
なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は急性白血病寛解導入療法に関する臨床的な研究であってaclarubicinは急性非リンパ性白血球に対して優れた治療成績を示し、かつ寛解導入において第一選択剤とされるdaunorubicinと同等の臨床効果を有することなどを明らかにした。これは臨床的に価値ある業績であり、よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。